

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業
 分担研究報告書
 脊柱靭帯骨化症に関する調査研究

研究分担者 山本謙吾 所属機関 東京医科大学整形外科学分野 役職
 研究協力者 村田寿馬

研究要旨 前縦靭帯骨化症による嚥下障害と頭蓋頸椎アライメントの関係について検討した。嚥下障害を伴う患者では、PIAが顕著に小さく、嚥下障害の原因となると考えられた。手術によりPIAは増大し、嚥下障害は改善した。

A. 研究目的

前縦靭帯骨化症に嚥下障害を合併することが知られているが、その病態について不明な点が多い。本研究では、頭蓋頸椎アライメントと嚥下障害の関係について検討した。

B. 研究方法

11名の嚥下障害をともなう前縦靭帯骨化症の患者と12名の嚥下障害を伴わないびまん性全身性骨増殖症の患者の頭蓋頸椎アライメントについて比較検討した。

(倫理面への配慮)

施設内のIRBで審査を受け、許可された。

C. 研究結果

嚥下障害を伴う患者群では、O-C2角、PIAが小さく、C2-C7角が大きかった。手術により、PIAが大きくなり、嚥下障害が改善した。

D. 考察

既存文献では、前縦靭帯骨化症による嚥下障害の予測因子として、骨化巣の大きさや局在などが挙げられている。本研究では骨化巣の大きさと局在を包含する指標として、PIAを用い、嚥下障害の予測が可能であった。また、嚥下障害のある患者ではO-C2角が低下しており、頭蓋頸椎アライメントの影響も示唆された。

E. 結論

嚥下障害の原因として、頭蓋頸椎アライメントが影響すると考えられ、手術の際にはPIAが増大し、90度以上となるように手術計画を立てることが望ましいと考えられた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Nishimura H, et al.

Risk factors of dysphagia in patients with ossification of the anterior longitudinal ligament
 J Orthop Surg. 2020; 28 epub, 2020

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし